

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
82	川崎市稗原小学校	齊野 保史

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> よく遊び、よく学ぶ子 認め合い、助け合う子 粘り強く、挑戦する子 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「生きる力」を育むために教職員一人一人が創意工夫した、子どもたちが夢や希望をもてる教育活動の実践 ◎学校・家庭・地域が連携協力し、多様性を尊重した魅力ある教育活動の実践

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 「確かな学力」を育む教育活動	<p>分かる授業、楽しい授業のために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることで、学ぶ意欲を育て「確かな学力」を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着に向けた学習態勢の構築・ICT活用の推進・主体的・対話的で深い学びの推進・専科、交換授業など学習形態を工夫した学びの向上等 	<p>分かる授業、学び方、考え方が身につく授業を目指した。校内研究テーマ「思いを伝え、聞いて、深める国語」とし、かかわり合いを大切に研究した。読書活動も各学年工夫した取組を継続し、子どもは「できた」と、昨年度より約5%向上。専科・交換授業等により、学級の垣根を超えた支援・指導につながった。ICTも意識的に活用、家庭学習での取組も定期的に行った。今後も、継続・工夫した取組が必要。</p>	<p>「確かな学力」を育むため、その基盤となる基礎学力の向上を目指し、ICT活用やモジュール学習の内容の設定、改善を行う。読書活動についてもさらに工夫を加え、家庭との連携を進める。情報教育については、ICT活用の充実と情報モラル教育に対する日々の指導と発達段階に応じた指導の充実を図っていく。</p>
2 「豊かな心」を育む教育活動	<p>社会で自立して生きていくための資質・能力や態度と共に共生・協働の精神育成を通して人と関わる力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果測定を活かしたかわさき共生＊共育プログラムの効果的な活用(SOS教育)・支援教育コーディネーターを中心とした支援教育の推進・異学年交流の推進等 	<p>継続的な異学年交流により、保護者がよい取り組みだと97%が回答。一定の成果を上げている。支援教育コーディネーターを中心に、学校カウンセラーやSSW等連携し相談体制の充実を図った。かわさき共生＊共育等、保護者への啓発を行った。「SOS出し方受け止め方」も継続的に全学年で指導した。しかし、まだ認識が低い。今後もより一層の相談体制の構築や啓発に努め指導していく。</p>	<p>かわさき共生＊共育等、指導の充実と保護者への啓発をしている。しかし、成果やその認識が低い。学校公開日や授業参観を通じて、今後もより一層の啓発をし指導を進めていく。教育相談体制についても外部との連携も進んでいる。さらに、子ども・保護者に寄り添った、丁寧な支援体制の充実を図っていく。</p>
3 「健やかな体」を育む教育活動	<p>将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うと共に、体力向上や食育の充実などを通して育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上に向けたキラキラタイムの充実・「スポーツフェスティバル週間」を活用した運動の啓発・食育(望ましい食習慣)の推進等 	<p>新型コロナウイルス感染症が、5類相当になり、夏休み明けより給食をグループでの会食形式にした。職員研修を充実させ、より一層の食育に努めたい。「スポーツフェスティバル」は、本校の特徴ある取組となっている。継続した取組ではあるが、今年度は、子ども・保護者共に前向きには捉えているものの、楽しく身体を動かす活動が、低下しているのは課題である。</p>	<p>食育の充実については、発達段階に応じたより一層の充実を図るために栄養職員・養護教諭との連携を充実させ、家庭への啓発を行い協力して推進する。体力向上については、さらに日常的な運動の取組ができるように学校全体でこれまでの取組を見直し、改善を図っていく。</p>
4 地域の中で連携協力する教育活動	<p>保護者や地域の方々と創意工夫して子どもたちの成長を支えていく持続可能な協働体制づくりを通して地域の中で協働連携して育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会、学校説明会、懇談会等の充実を目指したアンケートの活用・地域諸団体との連携強化と交流活動の推進等 	<p>各学年、地域素材を活用した学習を行い、地域とのつながりを生かした取組を進めた。今年度より、学校運営協議会を設置(年2回)した。委員から学校運営、授業の様子、地域の様子など、率直な意見を頂いた。地域行事も増え、子どもの参加も積極的であった。行事、学校公開日や授業参観等継続的に保護者アンケートを実施した。結果を踏まえ、早急な対応を目指し改善につながり、今後も継続していく。</p>	<p>地域素材・地域人材を生かした取組の見直しを図りつつ、昨年度よりも多く行った。学校運営協議会、保護者等からの意見を踏まえ、早期対応すべきこと、長期的対応等見極め、改善・工夫を図り、全職員と共に来年度の学校運営を進めていく。令和7年度には開校40周年を迎える。地域と共に歩む学校として連携協力をより一層強化していく。</p>
5 安心・安全、快適な教育活動と学校づくり	<p>子どもたちがいきよとした学び、活動できるような安全教育と安全管理の両面からの取組安心・安全、快適な教育環境と学校づくりを推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育、安全教育を通じた意識の向上・地域、保護者と連携した登下校の安全対策、不審者対策など、安全・安心の確保・学校防災対策指針の充実と推進 	<p>安全管理の徹底を全職員行った。警察署等の関係諸機関の協力を得る、職員研修の充実、意識と実践向上を図った。子どもを対象とした防犯訓練、保護者への引き取り訓練等実施時期、方法等改善し行った。外柵等の修繕工事等もあり環境面も修繕、改善した。子どものアンケート調査で、ルールを守って過ごしていると約90%が回答。しかし、職員はさらに日常的な場面や情報モラル等、指導の必要性を感じている。今後も安全管理・指導の向上を目指したい。</p>	<p>学校危機管理マニュアルに基づいて、日々の学校内外の確認、点検を行い早期対応できる体制をさらに図っていく。安全教育については、生活・交通・災害安全等の内容が日常生活全般において子どもが進んで安全で安心な社会づくりに貢献できるような資質や能力を養うことができるよう努める。そのため、職員への研修の充実、防災訓練等、様々な想定をし指導していく。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>子ども達の対話によって学習を進め、夢中になって取り組んでいる姿が印象的だ。また、情報機器を上手に取り入れている。授業改善、環境面等、丁寧に指導し、職員一丸となって推進している。高学年を中心とした委員会活動で、自主的な取り組みが、個人・学級・学年の成長につながっている。特に「あいさつ団」は、素晴らしく今後も引き続き取り組んで欲しい。コミュニケーション力や互いを助け合う関係性を作るためにも学校・家庭・地域とさらに連携し、それを重視していく必要がある。そのためにも学校の教育活動に理解、協力をしていきたい。今後の子ども達の成長が楽しみである。</p>	<p>学校教育目標の具現化のため、5つの重点目標を置き、教育活動を推進した。昨年度の課題である読書活動、情報教育、粘り強く取り組む、教育相談・児童支援の充実を図った。主体的・対話的で深い学びの実現に向け、子どもの実態把握に基づいた授業改善を行った。また、ICT活用、専科・交換授業など学習形態を工夫し、一定の成果を上げた。児童会を中心とした自主的な活動も継続的に行われ、地域からもその成果に評価をいただいている。教育相談についても外部との連携強化を図り、さらにニーズに応じた態勢を充実していきたい。課題としてあげられることについては、来年度、教育委員会の助言をいただき、子どもたちを中心に学校・家庭・地域と共に歩む学校としてより一層連携を図り、改善に取り組んでいきたい。</p>